

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号	20
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。	
2 評価する領域・分野	◇研修	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒の主体的で対話的な深い学びの実現を目指したアクティブ・ラーニングへの授業改善と、いじめや不登校に早期に対応し生徒の心の問題にきめ細かく向き合える職員の指導力の向上を目標に教育活動を進めている。生徒・保護者対象のアンケートでは、大半が学習指導や生徒指導に先生が熱心に取り組んでおり、生徒の安全・安心に配慮した指導がなされているという点で高い評価を得ている。授業を通して一人一人の能力に応じた指導が行われているという認識には、保護者と生徒の間では少し隔たりがあり、生徒の実態を的確にとらえた、学校全体の適切な指導体制づくりと職員一人一人の能力の向上には改善の余地も見られる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇アクティブ・ラーニングによる授業改善と指導力の向上。 ◇いじめや不登校、発達障害等に関する生徒理解及び対応能力の向上。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> • 企画委員会、生徒指導委員会、人権教育委員会 • 分掌会、教科会、学年会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業公開を積極的に実施し、教員による相互評価、管理職による授業参観と指導・助言、自己啓発面談を進める。 (2) いじめの早期発見と不登校への早期対応をスクールカウンセラーの活用を積極的にして指導の充実に努める。	(1) 生徒及び保護者アンケート、教員の相互評価、生徒対象の授業アンケート（満足度調査） (2) 生徒対象生活アンケート（迷惑調査）、i-check（生徒自己理解調査）、保護者対象メールアンケート	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> • 年2回の授業公開週間を設定し、外部評価を受けるとともに職員相互または管理職による授業参観を行い授業評価を実施し、アクティブ・ラーニングによる授業改善を進める。 • 先進校の視察を実施し、授業改善について研修する。 • 生徒に関する教員間の情報共有を図るとともに、早期に適切に対応する体制づくりと職員の指導力を向上させる。 	① 教科の枠を越えた授業参観及び相互評価を通して、授業力が向上できたか。 ② いじめ・不登校等に対する理解を深め、適切に対応する方法を学び実践できたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input type="checkbox"/> A B C D
11 成果・課題	(成果) ○学習室や情報機器を利用したり、ホワイトボード等を利用しアクティブ・ラーニングについて授業研究を進めることができた。 ○一人一人の職員がいじめや不登校についての感覚を敏感にして教育活動を進め、各種調査からも予兆を早期に発見し、スクールカウンセラーを積極的に活用し関係機関とも連携を密にして対応することができた。 (課題) ▲アクティブ・ラーニングの取組は、教科間・教師間のばらつきがあるので、来年度は全職員が取り組めるような情報機器の活用も含め授業改善に取り組む必要がある。	
	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	

12 来年度に向けての改善方策案

- 先進校の例に習って、ICT機器を積極的に活用し、総合的な学習の時間を充実した時間にするための計画を立てて実行したい。
- いじめの未然防止と早期発見・迅速な対応、不登校への早期対応ときめ細かい支援体制について職員間で共通理解を図り、情報を共有し問題解決に速やかに向かう職員体制を確立したい。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月8日

【意見・要望・評価等】

- いじめ・不登校等に関する理解と対応を、形式的にはなく、実際に有効で効果的な内容のある方法とは何か、という観点から学んでいるところが大いに評価される。スクールカウンセラーの効果的活用はその一例。
- 以前は「おとなしい」というイメージの生徒さんが多かったが、今は「自分」をしっかりと持った、芯の強い生徒さんが多くなったように思う。「人前で自分の意見が述べる。」「人の意見を聞く、尊重する、そのうえでさらに自分の考えをまとめる。」そのような機会を多く体験し、自分に自信を持てる生徒さんが増えたのだと思う。人前で話す・・・という行動は社会に出てから、大変必要とされることだと思う。高校生の頃から進んでそのような機会に挑戦してほしいと思う(失敗を恐れたりや恥ずかしいと思ったりすることなく)また、自分と違った考え方をする人がいることを知る、認める、といった体験も若いうちからたくさんすると益々人として大きく成長できると思う。そんな機会がたくさんあるといいと思う。自己肯定感が養われる。
- 先進校の視察等外部からの情報にも目を向け授業の質の向上にして欲しいものです。
- アクティブラーニングによる授業を見せていただき、これからの学習方法なのでさらに研修を重ねていただきたいと思います。
- いじめ、不登校については、先生かたの温かいご指導をよろしく願いいたします。